

## 経営協議会での意見等への本学の取組状況

平成24年5月現在

学外委員からの意見	取組状況
<p><b>【男女共同参画について】</b></p> <p>①男女共同参画への取り組みやその成果等について、わかりやすい形で市民に伝えてはどうか。</p>	<p><b>①-1 男女共同参画広報ホームページをリニューアル</b></p> <p>当該コーナーは、1.本学の取組を紹介する欄の追加、2.各種イベント情報の充実、3.女性支援のための情報提供により内容を充実するとともに、市民に分かりやすく伝わるような画面構成に見直した。</p> <p><b>①-2 女性研究者のテレビ放送公開講座を開催</b></p> <p>「私はここで輝く。～熊大の女性プロフェッサーたち～」のテレビ放送公開講座を実施した。</p> <p>目的: 女性研究者のキャリア、教育・研究活動などの生き活きとした活動を紹介することにより、本学の男女共同参画にかかる良好な職場環境及び女性研究者のシーズを広くアピールする。</p> <p>内容: 本学で自らの研究と教育に情熱を傾ける女性研究者にスポットを当て、5回シリーズで5人の研究者をドキュメンタリーで紹介。</p> <p>放送期間: 平成23年11月26日～平成23年12月24日の毎週土曜日に30分間放送(翌週に再放送)。</p> <p><b>①-3 第三期の次世代育成支援行動計画を策定</b></p> <p>「第3期熊本大学次世代育成支援行動計画(平成24～25年度)」を策定した(H24.2)。</p> <p>また、平成22,23年度の行動計画に基づく取組により、「くるみんマーク」(厚生労働省が認定し、広告や商品などに付け加えることができる)の平成24年度中の取得を準備している。</p> <p><b>①-4 男女共同参画の図書フェアを開催</b></p> <p>目的: 本学の男女共同参画への取組を公表する。また、学内外の人に男女共同参画への関心を促す。</p> <p>内容: 学内外からの来場者に、ポスターやパンフレットを使用して本学の男女共同参画への取り組み状況を伝えるとともに、新たに購入した男女共同参画に関する図書67冊を展示し、同図書を貸し出した。</p> <p>場所: 図書館中央ロビー</p> <p>開催期間: 平成24年3月15日～平成24年3月31日</p> <p><b>①-5 パンフレット、ポスター、広報グッズを充実し、配付</b></p> <p>本学の男女共同参画への取組状況を分かりやすくまとめたパンフレット、ポスター及び広報グッズ(クリアファイルバッグ)をデザインし、作成した(H24.3)。</p> <p>目的: フォーラムや各種イベント等で配付し、本学の取組状況を広く伝える。</p>

<p><b>【教育の充実について】</b></p> <p>①大学としての教養教育を議論して、それをカリキュラムに転じ授業化してほしい。そして、それを学生に教授する教育方法の開発も重要と思う。大学の姿勢として、教育の大事さ、教育の質の向上というものを目指し、根本からもう一度考えていただきたい。</p> <p>②カリキュラムを今日的に変えてほしい。これほど、社会が激しく変化している中で、これまでと同じようなカリキュラムで教育しているように感じられる。</p> <p>③学士課程教育プログラム構築では、その成果を示してほしい。</p>	<p><b>①～③新たな学士課程教育プログラムを構築</b></p> <p>豊かな教養と確かな専門性を身に付け、社会に貢献するために必要な創造的知性と実践力を兼ね備え、グローバルな視野を持った人材を育成するため、「熊本大学学士課程教育に期待される学習成果」として、「豊かな教養」「確かな専門性」「創造的な知性」「社会的な実践力」「グローバルな視野」「情報通信技術の活用力」「汎用的な知力」の7つを設定し、これに基づく体系的な学士課程教育プログラムを段階的に整備し、平成 23 年度から開始した。</p> <p>また、これまでの教養教育実施機構を、各学部と大学教育機能開発総合研究センターで構成する「教養教育機構」に改編した(平成 23 年 8 月)。これにより、学士課程一貫教育の観点から、教養教育と専門教育の区分を超えた科目の整理による科目体系の見直し(例:教養教育の英語を一部専門教育に移行)や、教養教育に新たな科目(共通基礎科目)を設置するなどにより、学士力の向上を図った(平成 24 年度から実施)。</p>
<p><b>【留学生受入の方策について】</b></p> <p>①留学生の受け入れにおいて、多少の経費を要するかもしれないが、学部の留学生を増やす方策を推進すべきではないか。</p>	<p><b>①-1 交流協定校の開拓等による留学生増</b></p> <p>留学生増加の方策として、将来の交流協定締結に向け、協定校等での周年記念行事やフォーラム等への出席・講演を行う際に、新しい協定校の開拓を行い、協定校数は 131 校(前年度比 14%増)に増加している(平成 24 年 5 月 1 日現在)。このような取組により、留学生数は、395 人(前年度比 12%増)に増加している(平成 24 年 5 月 1 日現在)。</p> <p><b>①-2 秋季編入学の導入による留学生受け入れ拡大</b></p> <p>国際的視野を持ち、異文化理解に優れた人材を育成するため、秋季編入学の教育プログラム導入に向け、工学部において概要を設計し、大学間交流協定校である中国・山東大学との間に「秋季編入学制度に関する覚書」を締結するとともに、平成 24 年 10 月から試行を開始することとした。また、入学前学習のための eラーニングコンテンツの整備を行うとともに事前調査などを行った。</p>
<p><b>【グローバルな人材育成について】</b></p> <p>①日本人学生には英語による講義等により、英語力を身につけた国際的に通用する人材を育ててほしい。</p>	<p><b>①-1 英語教育能力向上のために海外 FD 研修を充実</b></p> <p>目的:英語による授業の導入を促進するため、教員の指導力向上を図る。 内容:平成 22 年度から教員を海外に派遣し、2 年間で 17 名の教員をアメリカ・カナダに派遣し、報告会を開催した。</p> <p><b>①-2 英語による授業科目の拡大</b></p> <p>大学院自然科学研究科附属総合科学技術共同教育センターで、英語による授業科目として、平成 23 年度は前学期、後学期合わせて 20 科目を開講した。</p>

	<p>①-3 留学生交流支援制度の活用</p> <p>(独)日本学生支援機構による成23年度留学生交流支援制度(ショートビジット)プログラム」を活用し、平成23年度は116名の学生を海外に派遣した。</p> <p>①-4 独自の奨学金制度により、海外での学習・研究活動を支援</p> <p>「熊本大学国際奨学事業」により、国際学会での発表、国際的な調査活動、国際インターンシップ、交流協定校での目標を定めた学習、国際的な学習・研究活動、短期海外語学セミナーに参加する学生の支援を行っている。[平成23年度 支援学生数 167名]</p> <p>また、学生の国際的視野と学習・研究能力を高めるとともに、派遣学生の増加などを図るため、「国際共同教育事業(短期派遣留学生交流支援)」を平成23年度に創設した。[平成23年度 支援学生数 4名]</p>
<p><b>【地域貢献について】</b></p> <p>①脳集団である大学が様々な分野でリーダーシップを発揮し、地域経済の活性化に向けて行動することが重要。例えば、大学発のベンチャー企業を立ち上げることも、結果的に社会貢献に繋がるものと思われる。</p> <p>②歴史的建造物を生かしたキャンパス環境整備は県の観光にも繋がるため、県民の再認識を得ながら積極的に推進してほしい。</p>	<p>①-1 民間企業等との共同研究及び受託研究契約の増加</p> <p>地域経済全体の活性化への貢献を目的に推進し、その件数は平成23年度が446件(前年度比27.4%増)と増加傾向にある。特に地場産業との共同研究契約は締結件数が増加し、実用化が期待される発明等も生じている。</p> <p><b>「KUMADAI マグネシウム合金の例」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本県が策定した「熊本県産業振興ビジョン 2011:期間 2011～2020」において、その事業化が目玉事業として位置づけられている。</li> <li>・本学と地元企業が共同申請した「経済産業省 イノベーション拠点立地支援事業」が平成23年7月に採択された。</li> <li>・共同研究の成果を踏まえ、量産体制構築を目的にした新工場を長洲町に建設予定である。</li> <li>・世界最新鋭の施設を国内外の研究者に開放し、新たな技術開発や人材育成に活用するため、平成23年12月に「先進マグネシウム国際研究センター」を大学内に設置した。</li> </ul> <p>①-2 「熊本都市戦略会議」の取組</p> <p>地域における都市戦略を構想・実現するために、熊本県、熊本市、熊本大学のトップが集う「くまもと都市戦略会議」(平成22年度設置)を開催した。会議では、地域課題や将来ビジョンについて協議し、留学生の増加と学園都市推進、熊本上海事務所の開設、コンベンション都市づくり、熊本駅から中心市街地にかけた賑わいづくり等に取り組んだ。</p> <p>②-1 歴史文化財資源の活用推進計画を策定</p> <p>「熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム構想(第2期5ヶ年計画)」を策定した。(H23.12.8)</p> <p>当該構想は、本学が有する五高記念館、工学部資料館、山崎記念館、肥後医育記念館、熊葉ミュージアム等を総合的に地域資源として活用するとともに、将来的には、これらの施設を包括する熊本大学博物館の設置を目指すもので、知的・文化的サービスの充実に資するものである。</p>

	<p><b>②-2 文化財活用策等の実施</b></p> <p>熊本大学滞在型セミナー「熊本へ行こう！明治を探そう！！」を開催した。      目的:文化遺産を活かした観光振興と地域活性化。      内容:五高記念館周辺の散策、熊本城周辺の歴史探訪などを行って明治の熊本を肌で感じてもらう。      講義では、五高記念館も舞台になったドラマ「坂の上の雲」のチーフプロデューサーによるドラマ制作の裏側を盛り込むなど、多彩なプログラム編成とした。      開催期間:平成23年11月3日～平成23年11月5日      参加者:37人</p> <p><b>②-3 工学部研究資料館の一般公開等</b></p> <p>平成24年4月から、毎月第3金曜日に一般公開することとした。      また、研究資料館内で年に2回程度、教育学部音楽科の協力を得てクラシックコンサートを行っている。</p> <p><b>②-4 熊本市と連携した観光振興・地域活性化</b></p> <p>文化庁公募事業「くまとの文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」が採択され、これにより、重要文化財の五高記念館の公開活用等について熊本市と連携して取り組んだ。</p>
<p><b>【ブランド力の強化について】</b></p> <p>①国際化における教育と研究の具体的な目標を定め、それを社会に公表すべきである。</p> <p>②ブランディング戦略プロジェクトは、活躍している卒業生や優れた研究に取り組んでいる先生方を、より効果的にアピールできるのではないかと期待している。</p> <p>③熊本の土地柄は国際的魅力に乏しいため、県と連携して魅力をアピールすべき。</p> <p>④大学のブランド化については、国公立を問わず他大学も同様に取り組んでいる。どこにポイントを絞るかが勝負どころではないか。</p> <p>⑤大学のブランド化と併せて、グローバルな人材を育成するという情報を発信し続けることが重要。</p>	<p><b>①～⑤ブランディング戦略への取組</b></p> <p>熊本大学のブランド力を強化するため「経営協議会」から以下のとおり意見を求めつつ、「ブランディング戦略検討会議」を設置し、調査・準備を行った。</p> <p>「経営協議会」      平成23年6月:ブランディング戦略の構想とその実施について      平成23年11月:ブランディング戦略プロジェクトについて意見交換      平成24年1月: //</p> <p>このことにより、ブランド力強化に向けた以下の(案)をとりまとめた。</p> <p>(1)熊本大学のブランド力モデル      (2)ブランディング(熊大強化)実践の組織体制      (3)熊本大学のブランド力強化プロジェクトの工程表(平成23年度～平成26年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランド力から見た熊大の体質強化</li> <li>・ブランド力強化の学内広報、学外広報</li> <li>・ブランド力強化の組織整備</li> </ul> <p>今後、検討会議の成果を大学運営に活かすため、多方面からの学内委員によるWGを設置する。WGでは、ブランディングの学内理解を深めつつ、平成24年10月までにブランド力モデルを構築する。またブランド力モデルの学内理解を踏まえ、施策を検討する。</p>